

参

四年

回数 11
筆順 ムム 参
オン サン
クン まい 11 る

成の立ち



頭にかんむりをつけた人の形を表した「参」と、サンという音（読み方）を表した「参」とを組み合わせて作った字です。

「人がかんむりをつけて行く」ことを表した字です。むかしは、お宮やお社や天子のごてんに行くときには、かんむりをつけて行きました。それを「行く」とは言わないで「まいる」と言いました。「まいる」ことを表した字です。【例】参宮、参拜、参内、墓参。

行く先をうやまって言うのに使います。【例】参観、参上。また、負けることを「降参」と言いますが、「あい手の所に頭を下げて行く」からです。それで、「負ける」ことを「まいる」とも言うようになりました。

使い方

▽お正月に、一家をろって、近くの神社にお参りしました。神社に参拜すると、気持ちすがすがしくなりました。

▽この前の日曜日に、授業参観がありました。おとうさんが、うしろで見ていたので、ちよつと緊張してしまいました。

熟語例

▽参宮（神宮にお参りすること。とくに、伊勢神宮にお参りすることをいうことがあります。伊勢神宮は、日本でも一番由緒のある神宮だからです。）

▽参拜（神社やお寺にお参りすること。）

▽参内（皇居に参ること。「天皇陛下に勲章をいただくために、参内した」などというふうに、つかいいます。）

▽墓参（お墓に、お参りすること。）

▽参観（なにか大切なことをやっている所に行つて、見ること。）

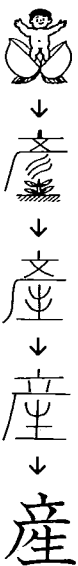
▽参上（参ること。うかがうこと。行く先をうやまったいいかたです。「明日、おたくへ参上いたします」などというふうに、つかいいます。）

産

四年

回数 11
筆順 ナ ャ 产 产 产 产
オン サン
クン う 11 まれる 11 ム・うぶ

成の立ち



「りっぱな男の子」という意味を表した「彦」（海彦、山彦）という字と、「生む」という意味の「生」とを組み合わせて作った字で、「りっぱな男の子を生む」という意味を表した字です。

むかしは、「りっぱな男の子を生む」ことが、家のためが一番たいせつなことでしたから、「生む」ことをいわつて「産」と言ったものです。【例】出産、安産。

また、「生活にひつような物を作り出す」という意味にも使われるようになりました。【例】生産、産業。

使い方

▽うちのめんどりが卵を産みました。うちのめんどりが産んだ卵は、最高の味がします。

▽赤ちゃんが産声をあげて生まれました。さっそく産湯をつかつてから、産着をさせました。

熟語例

▽出産（子どもが産まれ出ること。子どもを産むこと。）

▽安産（安らかに、子どもを産むこと。【例】「難産」）

▽生産（生活にひつような物を作り出すこと。「この工場では、おもちゃを生産しています」などというふうに、つかいいます。）

▽産業（生活にひつような物を作り出す仕事。生産の仕事）

▽産物（その土地で生産する物）

▽産声（赤ちゃんが産まれる時に出す泣き声）

▽産湯（赤ちゃんが産まれた時、お湯をつかつて洗うこと。また、そのお湯のこと。）

▽産着（産まれたばかりの赤ちゃんにさせる着物）